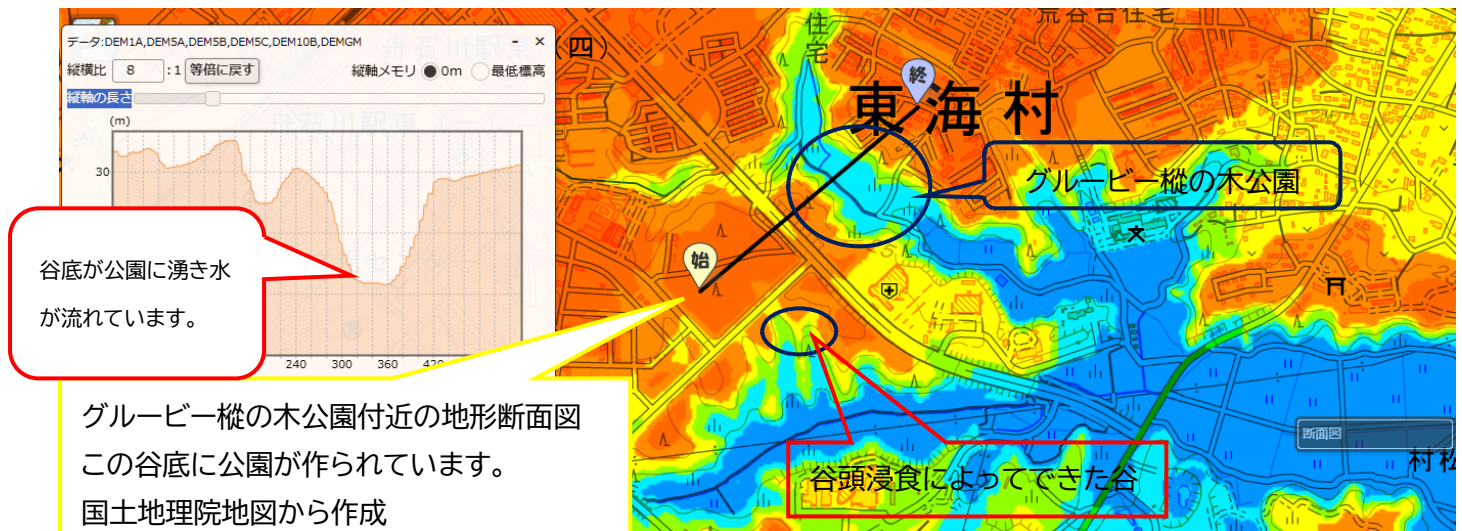


東海村の地形

東海村は台地と低地が広がっています。台地は住宅地や畑に、低地は水田に土地利用してあります。台地と低地の間には段丘崖で雑木林や森林になっています。この段丘崖はどのようにできたのでしょうか。また、段丘崖には湧水が流れていてこの水を利用して水田にも利用しています。6月8日、「白方小土地のつくり調査隊」で東海村グルービー縦(もみ)の木公園付近の台地や谷を調査して火山灰や砂層、粘土層、礫層、粘板岩を調べました。この公園には川が流れていて、公園には地下から湧水が湧き上がっているところを発見しました。



東海病院西側の露頭



地下から水が湧き上がっている。(湧水)

グルービー縦の木公園の湧水(ゆうすい)



谷頭浸食(こくとうしんしょく)によってできた谷



グルービー縦(もみ)の木公園付近の谷地形

緑の少年団交流集会

6月15日、緑の少年団交流集会に白方小学校の5、6年生17名が参加しました。場所は常陸太田市里川町の「プラトーさとみ」、標高が780mで山の頂上に位置しています。午前中は野外観察やどんぐりの森を作るためにどんぐりの種を土に埋める作業をしました。午後はくぎとハンマーで木箱作りや「かんなくず」を使った造花(ぞうか)を作りました。



「プラトーさとみ」付近の風力発電施設 午前中は曇りでしたが午後は晴れて見晴らしが良くなりました。



山の頂上にどんぐりの種をまいてどんぐりの森を作ります。



どんぐりの種(種から根が出てきたもの)を土に植えました。



ハンマーでくぎを打ち木箱を作りました。



「かんなくず」で造花を作りました。

ホタルの季節

6月1日、ゲンジボタルが、東海村須和間で成虫が飛翔しているのを確認しました。東海村とひたちなか市の境界の新川沿いに、4カ所地点で数匹確認しました。6月7日には、ヘイケボタルが飛翔しているのを確認しました。白方小学校周辺にはヘイケボタルが生息していますが、まだ確認していません。6月中旬から7月上旬にかけて成虫の飛翔が見られます。7月上旬にホタル観察会を計画しています。



ゲンジボタル体長1.2cm 東海村須和間
2025年6月1日 撮影



ヘイケボタル体長9mm 東海村須和間
2025年6月7日 撮影



ゲンジボタル 東海村須和間
2025年6月1日 撮影



ヘイケボタル 東海村須和間
2025年6月7日 撮影

カマキリのふ化

6月9日、第2理科室の虫かごからカミキリの卵のうからふ化して多くの幼虫が出てきました。幼虫が脱皮を繰り返す中で最終的に成虫になります。幼虫として6~7回脱皮を繰り返し、最終的に成虫に羽化します。

1. 卵の孵化:

カマキリは卵のうからふ化し、多くの幼虫が同時に生まれます。1つの卵のうには200~300個の卵が入っていることもあります。

2. 幼虫の成長:

孵化後、幼虫は脱皮を繰り返し成長します。幼虫の時期は、5~8月頃が一般的です。

3. 羽化:

6~7回の脱皮を経て、カマキリは成虫に羽化します。羽化した成虫は、7月下旬から10月頃まで観察できます。

カマキリの赤ちゃん(幼虫)は、生まれたばかりの仲間を共食いする性質があります。これは、幼虫が非常に小型で、餌が不足しがちであるためです。また、生まれたばかりの幼虫は、自分の餌を捕獲する能力がまだ発達していません。そのため、仲間を捕食して栄養を補給するのです。

Google 検索の AI による概要から引用



カマキリのふ化 カミキリの幼虫体長9mm

2025年6月10日 撮影

サツマイモ苗植え

6月4日、5日に全学年でサツマイモを植えました。サツマイモの種類はベニハルカで食べるとしっとりしているので「ほしいも作り」にも使用されています。いにしえガーデンの畑800㎡に1500本植えました。



サツマイモ苗植え いにしえガーデン
2025年6月4日 撮影



落花生の種まき

6月9日、4年生が体育館裏の農園で落花生の種まきを行いました。茨城県農林振興公社から「落花生栽培体験学習」の目的で落花生の種を提供していただきました。



落花生の種まき
2025 年6月9日 撮影



落花生の種がカラスに食べられないように
黄色い糸を張って防いでいます。

ジャガイモの収穫

6月2日、6年生が3月14日にジャガイモの種を植えました。約3ヶ月で収穫することができました。6年生の理科「植物の成長と日光の関わり」の単元でジャガイモの葉に日光が当たるとデンプンができることを調べる実験に使いました。ダンシャクとキタアカリの2種類を栽培して、約80kgを収穫できました。



ジャガイモの葉にアルミホイルをかぶせて日光を遮断しています。2025年5月13日 撮影



ジャガイモ(ダンシャク)の花
2025年5月13日 撮影



ジャガイモの収穫
2025年6月2日 撮影

ジャガイモ(キタアカリ)
2025年6月2日 撮影



ジャガイモ(ダンシャク)
2025年6月2日 撮影

スライム作り

5月27日、科学クラブでスライム作りをしました。材料は洗濯のりとホウ砂の水溶液をかき混ぜるとドロドロになったスライムができます。絵の具で色をつけて完成です。



スライムがのびています
2025年5月27日 撮影



コオイムシ

白方小の「いにしえガーデンの池」にメダカの体液を吸ってエサにしているコオイムシが生息しています。コオイムシはメスがオスの背中に卵を産みつける水性昆虫なのでコオイムシの名前が付いています。



いにしえガーデンの池で観察している児童
2025年5月7日 撮影

コシアカツバメ

白方小学校には、ツバメの巣が 5 か所あります。2年前の 2023 年までは従来のおわん型のツバメの巣で卵を産んでヒナを育てていたのですが、ヒナの成長をカメラに撮影することができましたが、昨年度 2024 年からは、トックリ型のツバメの巣だけしかありません。このトックリ型の巣はコシアカツバメの巣です。海岸線に近い陸地の民家に巣を作り、建物の高いところに巣を作るツバメです。ツバメの腰の部分が赤くなっているのがコシアカツバメと名付けられています。



コシアカツバメ 腰の部分が茶色で赤っぽい

白方小学校スクールプラザ 2025 年 5 月 16 日 撮影



コシアカツバメの巣 トックリ型
白方小学校スクールプラザ
2025 年 5 月 16 日 撮影



コシアカツバメの巣 トックリ型
2階 図書室前のベランダ
2025 年 5 月 16 日 撮影



コシアカツバメの巣 トックリ型
1階 校舎
2025 年 5 月 16 日 撮影

ツルレイシの種まき

4年生が理科の授業でツルレイシの種をまきました。種はかたいので2日間、水の中に入れて水分をふくませてまきました。



ツルレイシの種



水の中に種をいれて水分をふくませる



ビニールポットに土を入れて種をまきました。

2025年4月30日 撮影



花壇に昨年のこぼれた種で芽が出たツルレイシの苗をビニールポットに植えました。

カエルの卵

いにしえガーデンの池でカエルの卵を観察しました。



カエルの卵
2025年4月17日撮影

ジャガイモ

新6年生が3月14日にジャガイモの種を植え、4月中旬になりジャガイモの芽が出てきました。

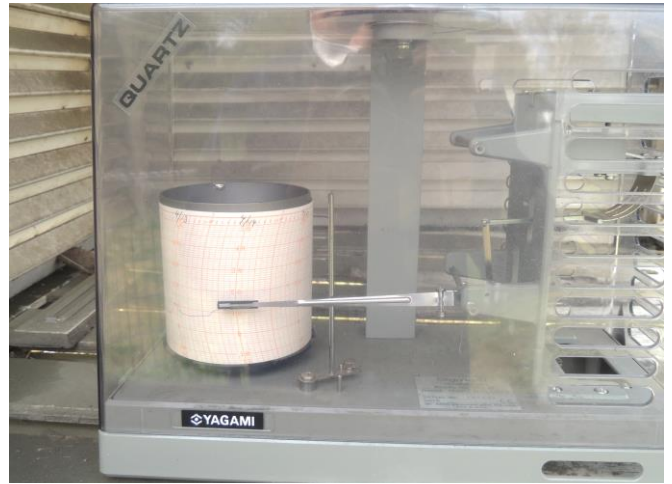


ジャガイモの種イモを植えている
2025年3月14日 撮影

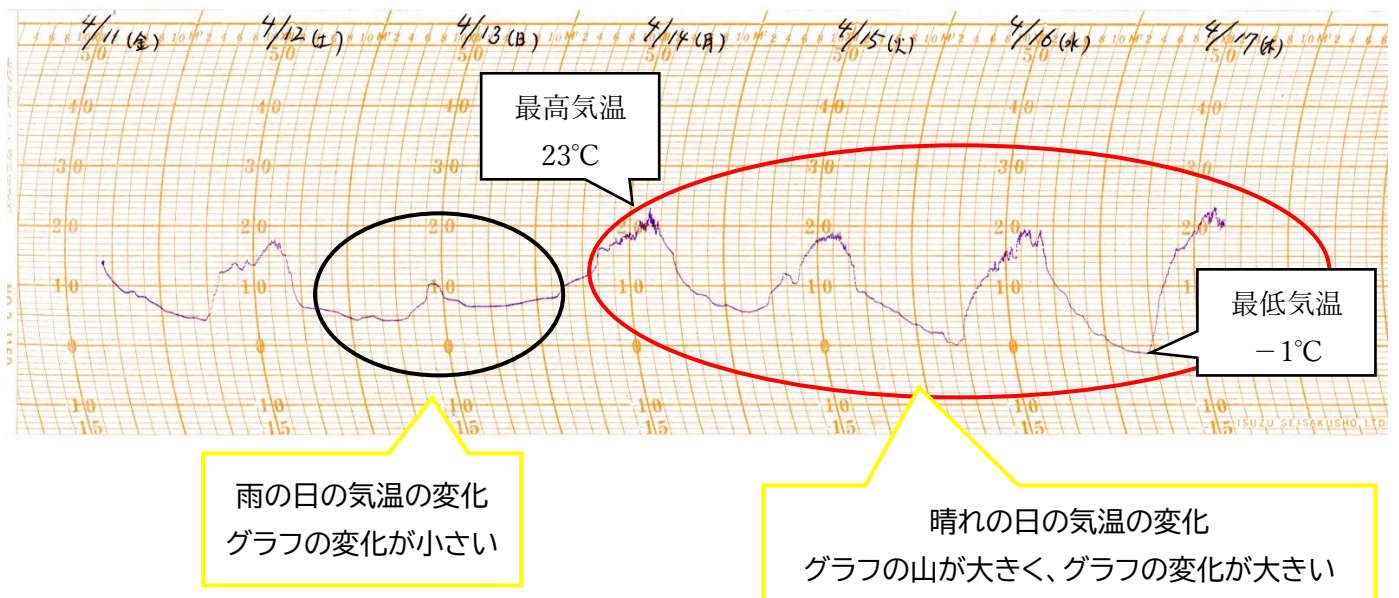


ジャガイモの芽が出ました
2025年4月19日 撮影

4年生の単元「天気と気温」では、百葉箱の中に自記温度計を設置して気温を測っています。



自記温度計の記録 4月11日～4月17までの記録用紙
春の季節は気温の温度差が大きいです。



いにしえガーデンの古墳に自生しているウラシマソウですが、スクールプラザ花壇の植木鉢に昨年度に植栽したウラシマソウも成長しています。



いにしえガーデン古墳に自生しているウラシマソウ
2025年4月11日撮影



スクールプラザ花壇の植木鉢に植栽したウラシマソウ
2025年4月19日 撮影

ウラシマソウ

いにしえガーデンの円形古墳にウラシマソウが200株ほど群生しています。3月下旬から4月にかけてウラシマソウの芽が出てきました。。ウラシマソウは地下にサトイモに似た大きな球根があり、春になると芽を伸ばし、苞(ほう)の中に伸びた付属体の先端部が細く糸状に伸びます。その姿は、浦島太郎が釣り糸を垂れている姿に見立てて、この和名がつけられました。



ウラシマソウ いにしえガーデン古墳

2025年4月2日撮影



スクールプラザ花壇やいしえガーデンには冬越しから春にかけての雑草が発芽、成長しています。主な雑草を紹介します。



コハコベ



オランダミミナグサ



ホトケノザ



ヒメオドリコソウ



オオイヌノフグリ



タンポポ